

行政視察報告書

平成 29 年 9 月 20 日

貝塚市議会議長 様

(市民ネット貝塚)

藪内 留治

阪口 勇

平岩 征樹

川岸 貞利

池尻 平和

【日程】 平成 29 年 7 月 19 日 (水) ~ 7 月 21 日 (金)

【視察先】 7 月 19 日 (水) 富山市役所

7 月 20 日 (木) Share 金沢

7 月 21 日 (金) 輪島市役所

【参加者】 藪内 留治、阪口 勇、平岩 征樹

池尻 平和、川岸 貞利

【行政視察】

○ 7 月 19 日 (水) 富山型デイサービスについて

富山市役所において、富山型デイサービスについて説明を受けた。平成 5 年に富山赤十字病院を退職した 3 人の看護師が開所したデイケアハウス「このゆびと一まれ」において、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしに関わらず受け入れたことから始まり、「富山型」と定着したもの。「小規模」「多機能」「地域密着」をキーワードに、富山県・富山市では行政が推進に力を入れており、日本全国に富山型が広がってきている。

・ 富山型デイサービスへの支援 (ハード)

【施設整備】新築整備 (基準額 1,200 万円、補助率 県 1/3、市 1/3、事業者 1/3)

※ 中心市街地に立ち上げる場合は、県 1/3、市 2/3 (事業者負担なし)

【住宅活用施設整備】①住宅等改修、②機能向上

・ 人材育成事業 (ソフト)

【富山型デイサービス起業家育成講座】

新たに富山型デイサービスを起業しようとする方を対象とした実務的講座。

【富山型デイサービス職員研修】

富山型デイサービス職員を対象に、高齢者、障害者、児童などの分野を横断する総合的な研修を行い、サービスの質の向上を図る。

【富山型デイサービス施設人材確保事業】

求職者を介護職員として新たに雇用し、指導職員による介護技術や知識に関する指導を実施しながら実務経験を付与する。(雇用型訓練)

ハード面の支援だけでなく、ソフト面の人材育成にも力を入れており、公的職業訓練の枠組では対応仕切れない富山型サービスを担う人材育成にまで乗り出している。富山型デイサービスは、高齢者・障害者・児童・地域にとってお互い良い刺激となるため推進していくべきものだと考えるが、基準該当事業所の障害福祉サービス報酬が指定事業所よりも算定が低いことが事業者にとっては課題だ。今後益々進む高齢化の中、デイサービスと地域を結びつける発想は、地域共生社会の実現に向けて本市にとっても参考になるものであった。



Q4: 富山型デイサービスでは、現在どのようなことが課題となっているか。
A4: 富山型デイサービスでは、障害福祉サービス報酬の改善が課題となっています。特に、次のことについて、改善を要望しております。

(1) 指定外事業所の障害福祉サービス報酬が、指定事業所よりも算定が低い。(単位/日)

項目	利用定員	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
指定	25人以下	1,278	899	680	515	459	403
指定外							347

※算定モデル定員20人(富山型は高齢者10人、障害者10人)

基本報酬額の差

施設タイプ	基本報酬額
指定外	23万8千円
指定	21万2千円
富山型	19万2千円

【目安あり】

○7月20日(木) 日本版 CCRC Share 金沢

日本版 CCRC として全国から注目を集めるシェア金沢において施設と事業概要についてお話しを伺った。

石川県の社会福祉法人佛子園が、国立病院機構金沢若松病院の跡地を買い取り、平成26年3月に開設。11,000坪の敷地を有し、敷地内には障害児の入所施設、サービス付高齢者住宅、アトリエ付き学生向け住宅、学生向け住宅(家賃を低く設定する一方、Share 金沢での月30時間のボランティア活動が入居の条件)、児童発達支援センター、高齢者向けのデイサービスや生活介護、訪問介護を手掛ける事業所などが立ち並ぶ。

さらに天然温泉や食堂を兼ね備えた拠点施設に、全天候型のグラウンド、料理教室、ボディーケア店、クリーニング店、バーなど様々な商業施設も立地(独立採算性)。商業施設には、周辺の住民も多く訪れ、エリア内にあるドッグランやアルパカ牧場は憩いの場となっている。障害をもった子どもから大学生、そして高齢者まで、世代や障害の有無を超えて、共存して暮らす街として、金沢市内や周辺だけでなく、関東、関西、さらには海外からの移住者もいる。

用地取得費を含め総事業費は約 23 億円。国立病院跡地の売却に応札し、比較的 low 価格で土地を入手。また、街区内を周回する道路を整備後に金沢市に寄附したことで、地価が大幅に上がり、街区の用地を担保に金融機関から借り入れられる額が増加するなどのスキームで調達。

いろいろな人やいろいろな世代が同じ場所に集まる多共生型のコンセプトは今後のトレンドになっていくように感じた。輪島市でもタウン型 CCRC を建設中ということで、日本型 CCRC の今後の動向に注目したい。



○ 7 月 21 日（金）

輪島市公民館において、地域ぐるみの公民館活動と生涯活躍のまちプロジェクトの 2 点について説明を受けた。

【地域ぐるみの公民館活動について】

輪島市には禅の里、平家の里、漆の里の 3 つの里構想があるが、3 つの公民館がそれぞれ学習活動を担っている。学校と地域の結びつきという観点から活動。

- ・ コミュニティ活動推進事業（公民館まつり等）
- ・ 公民館通学体験合宿
（3 泊 4 日で公民館から登下校を行い、炊事掃除など自分たちで行う体験合宿。）
- ・ 花いっぱい咲かせましょう！
- ・ 声かけ運動
- ・ 地区社会体育大会

【生涯活躍のまちプロジェクト】

新交通システムでつなぐ漆の里・生涯活躍のまちプロジェクト。

主要産業の輪島塗は最高期 120 億円から現在では 42 億円に減少。観光客も最高期 250 万人から 120 万人に落ち込む。昨年は新幹線効果で 140 万人に回復したものの、継続的な取組みが必要。

・生涯活躍のまちづくり (CCRC の導入)

社会福祉法人佛子園からの提案で青年海外協力協会 (JOCA) の若者 10 名を移住させるプロジェクトを始める。ウェルネスの設置等。障害者施設も不足気味でありニーズに合う。ただ高齢者偏りの人口増やサポート担い手不足は懸念されるところである。

各市によって諸事情は違えども、地域コミュニティを巻き込んだ活動と地域資源を生かしたまちづくりを同時並行でやっていかななくてはならないことは同じだ。深刻な人口減少・少子高齢化の中で、民間とも協働で試行錯誤の中で生まれた施策は、本市のまちづくりにおいても大変参考になるものだった。